

吉川座長の御意見

CWD について

1967 年米国コロラド州フォートコリンズでミュールジカ(mule)に海綿状脳症が発生した。この地域はミュールジカ、アカシカを放牧あるいは捕獲飼育している。この他にアカシカ、オオジカ(elk)、ロッキー山脈ヘラジカも感染する。現在までコロラド、カンサス、ミネソタ、モンタナ、ネブラスカ、オクラホマ、サウスダコタ、ワイオミング、ニューメキシコ、ウイコンシン、イリノイ州とカナダのサスカチュワン州(1996 年)、アルバータ州でも発生が報告されている。CWD は捕獲されたヘラジカでは 1%未満から 71%までの罹患率が報告されている(ミュールジカとオジロジカで 1%未満から約 17%、ヘラジカで 1%未満という報告もある)。

CWD の伝播経路は水平伝播によると考えられている。経口、直接接触(土壤汚染が原因)によるもので、汚染飼料とは関係しないと考えられている。1982 年罹患シカの脳乳剤を用いて CWD をシカからシカに伝達した。しかし、株のタイピングではスクレイピーとは異なる結果であった(マウス病変分布、マウス感受性)。CWD プリオンは罹患シカの脳、脊髄、脾臓、リンパ節で高濃度に存在する。

経口接種と接触による牛への伝達試験では、暴露後 5 年以上の経過でも陰性である。またコロラド州とワイオミング州の CWD 発生地域での牛 TSE のサーベイランスでは 1991 以後陰性である(J. Vet. Diagn. Invest. 2003)。米国では 1997 年以来、反芻動物飼料用にレンダリングする施設はシカとヘラジカの死骸の受け入れを禁止している(Code of Federal Regulation、Title 21 Part 589)。従って、CWD 罹患シカが牛への飼料になる可能性は非常に低い。現在までヒトへの感染の証拠は無い(E.S.Williams, M.W.Miller, Rev. Sci. Tech. Off. Int. Epiz. 2003)。これらのことから、米国・カナダの 20 ヶ月以下の牛(2004 年 2 月以後の生まれ)が CWD に汚染される可能性は非常に低いと考えられる。